

第3学年2組(27名) 道徳学習指導案

相手の気持ちを考えて【2-(2)】思いやり・親切

指導者 伊藤 江里子

1 主題設定の理由

【ねらいとする道徳的価値】

「身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする」という低学年の指導内容から、中学年では、「相手のことを思いやり、親切にする」という内容に発展する。相手が困っているときに、相手の立場に気づき、相手の気持ちを理解し、相手のことを考えて行動しようとする感情が思いやりである。そして、相手への思いやりの心が具体的に表れたものが親切な行為である。本校のテーマ「規範意識の育成」は、他人や集団が気持ちよく社会生活を営む上で、必要不可欠である。しかし、他人のことに無関心な人やルールやマナーが守れない自己中心的な人が増えている今、周りの人のことを思いやり、親切にする心情は、規範意識の基盤となる心情であると考え、本主題を設定した。

【道徳的価値に関わる児童の実態】

本学級の児童は、友だちが困っているときには、進んで手助けや声かけをするなど、優しい言動が見られる。しかし、何気ない言動や自己中心的な言動で相手にいやな思いをさせたり、傷つけてしまったりすることもあり、相手の気持ちを考えた言い方をしようと呼びかけている。

また、身の回りの人への親切な行動については、「学校の帰り道、近所のおばあさんが重い荷物を持って坂道を登っていました。あなたはどうしますか。」という問いに対し、「持ってあげる」は10名、「分からない」16名、「何もしない」1名であった。児童は、相手の立場を察して気遣ったり、その人の身になって考えたりすることの大切さを頭では理解しているが、実際には、最近の世相から見知らぬ人に手をさしのべる経験はほとんどない。そこで、みその寮のお年寄りとの交流会などの取り組みを通して、相手の立場や気持ちを理解し、相手が何を望んでいるのか考えて親切にしようとする気持ちを育てていく必要がある。

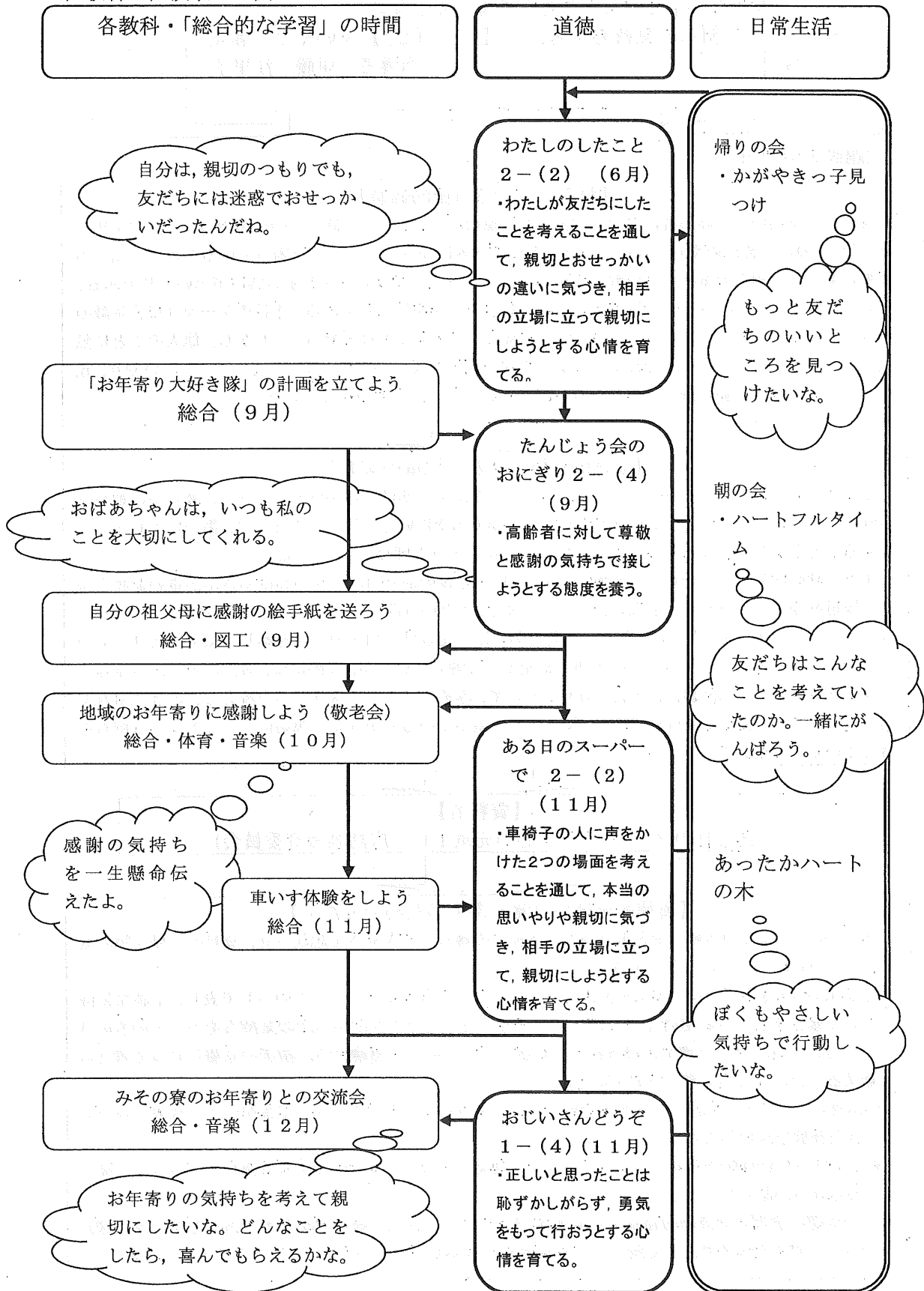
【資料名】

ある日のスーパーで(「心の元気I」 広島県教育委員会)

【道徳的価値の自覚を深めるためのてだて】

- ・導入では、車椅子の体験活動を振り返り、車椅子の難しさや大変さを想起させ、資料の登場人物の気持ちにつなげていけるようにする。
- ・展開前段の基本発問では、親切を拒否された主人公の気持ちをハートのものさしで表し、不満な気持ちに共感させる。中心発問では、困っている男の人を見たときのふみかの気持ちをハートのものさしで表して対話させ、声をかけるかどうか迷う主人公の心の葛藤から、相手の立場に立って考え行動することの大切さに気づかせていく。
- ・展開後段では、あったかハートの木を提示し、相手の立場や気持ちになって親切にした経験や親切にされた経験を思い起こさせる。
- ・終末では、みその寮の方をゲストティチャーに迎え、毎日お年寄りにどんな気持ちでどのように接しておられるか話していただく。
- ・この時間に学習した道徳的価値を日常生活で生かすとともに、総合的な学習「お年寄り大好き隊」のみその寮のお年寄りとの交流会で、お年寄りの立場に立って行動できるように取り組んでいく。

2 他教科・他領域との関連について



3 資料について

①資料の概要

スーパーに買い物に行ったとき、ふみかは、駐車場で運転席から車椅子に移ろうとしている男の人に気づき手をさしのべたが、断られる。不満げなふみかを残して男の人は段差も軽く乗り越えて行ってしまふ。店内で買物をしていると、さっきの人が陳列棚の上を見て困った顔をしているのに出会い、声をかけるかどうか迷う。思いきって声をかけて手助けし、男の人から「できることは一人でやるが、できないこともある。ありがとう。」と笑顔で言われる。

②資料の分析

場面	価値に関わるキーワード	主人公の心情と価値意識
1 駐車場に車を止める場面 (価値に気づいていない場面)	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいているよ。エレベーターの近く。」 ・「どうして？」 	<ul style="list-style-type: none"> ○近くて便利な所が空いている。 ○なぜ、止めてはいけないの。 【公德心-】
2 ふみかが手を差し出す場面 (変化のきっかけとなる場面)	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子が動かないように手を差し出しました。 「一人でできるから、さわらないで。」 ・ことわられて ・せっかく手伝ってあげようと ・不満げな ・段差も軽く乗り越えて 	<ul style="list-style-type: none"> ○大丈夫かな。 ○助けてあげよう。 ☆【思いやり・親切】【勇気+】 ○せっかく助けてあげようとしたのに。 ○ありがとうぐらい言えばいいのに。 ○手伝わなければよかった。 ☆【思いやり・親切-】
3 男の人が困っている場面 (価値に気づく場面)	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったような顔 ・きょろきょろ見回して 声をかけようかどうか迷って 	<ul style="list-style-type: none"> ○どうしたんだろう。 ○届かなくて困っている。助けてあげよう。 ○また断られたらいやだな。 ○知らんぷりしておこうかな。 ☆【思いやり・親切-】【勇気-】
4 男の人に声をかけた場面 (価値を確認する場面)	<ul style="list-style-type: none"> ・しばらく男の人を見ていた ・思いきって声をかけました。 「本当にありがとう。できることは、一人でやることに…自分一人ではできないこともあるんだよ。」 ・にっこりして 	<ul style="list-style-type: none"> ○困っている。やっぱり声をかけよう。 ☆【思いやり・親切+】【勇気+】 ○本当に困っているときに助けてあげることが大切なんだ。 ○喜んでもらってよかった。 ○断られなくてほっとした。

4 本時のねらい

ふみかが車椅子の人を手助けしようとして声をかけ、断られたときと喜んでもらったときの気持ちを考えることを通して、本当の思いやりや親切とはどのようなものか考え、相手のことを思いやり、親切にしようとする心情を育てる。

5 指導過程

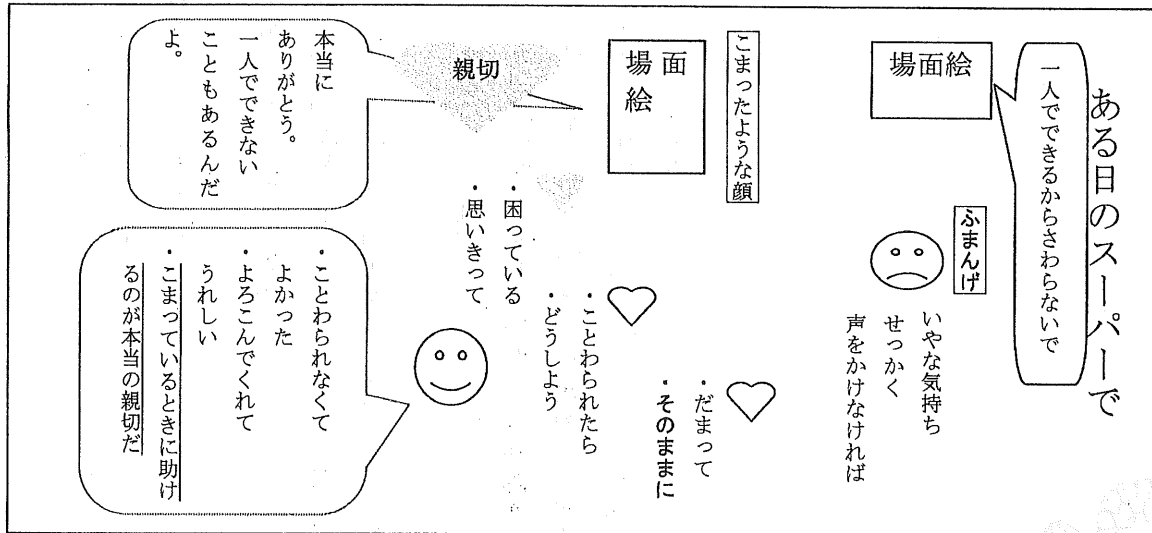
段階	学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 車椅子の体験活動を想起する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 車椅子に乗ったとき、どんな気持ちでしたか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・操作が難しかった。 ・坂道を押してもらったとき、こわかった。 ・思い通りに動けないので不自由だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子体験活動を振り返り、車椅子の難しさや大変さを想起させ、資料の登場人物の気持ちにつなげていけるようにする。
	2 資料を読んで話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 男の人に断られたとき、ふみかさんはどんなことを思ったでしょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・何がいけなかったのだろう。 ・せつかく助けてあげようとしたのに、どうして。 <ul style="list-style-type: none"> ・声をかけなければよかった。 ・いやな気持ちになって損をした。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 困っている男の人を見て、ふみかさんはどうするでしょう。声をかけるかどうか、どっちの気持ちが強いか、ハートのものさしで表しましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・さっきは自分でできていたけど、今は困っているようだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・思いきって声をかけよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> また、断られるかもしれないよ。それでも声をかけるの。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・また断られたらいやだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・どうしよう。 ・だまっておこう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 男の人の言葉を聞いて、ふみかさんはどう思ったでしょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・その人が困っているときに助けるのが本当の親切だと分かった。 ・駐車場では、助けなくても自分でできたから断られたのだ。 ・声をかけて、役に立ってよかった。 ・喜んでくれてうれしい。 ・断られなくて、ほっとした。 	
展開前段			

展開後段	3 自分の生活を振り返る	自分が困っているときに、親切にされて本当にうれしかったことはありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場や気持ちになって親切にした経験や親切にされた経験をあつたかハートの木などから想起させる。 アンケートやハートの木から実態を把握しておき、意図的指名する。
終末	4 教師の説話を聞く	みその寮で働いておられる〇〇さんは、毎日どんな気持ちでお年寄りに接しておられるのか、お話を聴きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> みその寮の方をゲストティチャーに迎え、毎日お年寄りにどんな気持ちでどのように接しておられるか話していただく。

6 評価について

評価方法	展開前段における児童の反応（ワークシート）
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> その人が困っているときに助けるのが本当の親切だと分かった。 駐車場では、助けなくても自分でできたから断られたのだ。 声をかけて、役に立ってよかった。

7 板書計画



ある日のスーパーで

「わあ。いっぱいだね。なかなか、車を止めるところがないよ。」
今日は日曜日、ふみかは、お父さんと買い物にきています。でも、駐車場
はいっぱいでなかなか車を止めるところはありませぬ。

「あつ、お父さん、あいてるよ。それもエレベーターの近く。」

「本当だ。でもだめだよ、あそこは。」

「どうして？」

「よく見てごらん、車椅子のマークがついているだろう。あそこは障害のあ
る人たちのためのスペースなんだよ。」

ふみかたちが車を止めたのは、入り口からずいぶんはなれたところでした。
店内に入ろうとしたとき、さっきの駐車スペースに一台の車が止まりました。
運転せきから一人の男の人が車椅子にうつろうとしています。ふみかは
近寄って、車椅子が動かないようにと手をさし出しました。
けれども、

「一人でできるから、さわらないで。」

と、その男の人にことわられてしまいました。

(せっかく、手つだつてあげようと思ったのに・・・) 不満げなふみかの前
で、その男の人は、エレベーター室の前の段差もかるく乗りこえてエレベ
ーターに乗っていきました。

「もう、ずいぶん車椅子になれている人みたいだね。ふみかがさわって車椅
子が動くのがこわかったんじゃないかな。」
お父さんがなぐさめてくれました。

ふみかが買い物をしていると、さっきの男の人がちんれつだなの上の方を

見てこまったような顔をしていました。ときどき、きよろきよろあたりを見
回しています。

(品物がとれないんだ。店員さんもないみたいだし・・・。手つだつてあ
げようかな・・・。でも、またことわられるかもしれないし・・・。)
ふみかは声をかけようかどうかまよってしまいました。

しばらく男の人を見ていたふみかは、思いきって

「どうしたんですか。お手つだいしましょうか。」と声をかけました。

「ありがとうございます。あの上のシャンプーがほしいんですが、取っていただけませ
んか。」

シャンプーを手わたすと、男の人は、

「本当にありがとうございます、さっきの女の子だね。おじさんは車椅子を使うように
なって、できることはとにかく一人でやることに決めているんだよ。でも、
どうしても自分一人でできないこともあるんだよ。本当にありがとうございます。声
をかけてくれてうれしかったですよ。」
と、にっこりしてくれました。



ある日のスキーパーティ

(

◎ 男の人の言葉を聞いて、ふみかちゃんはどう思ったでしょう。

A large speech bubble containing ten horizontal dashed lines for writing.

